

IEA石油市場レポートの概要（2017年10月12日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2017年第2四半期のとても強い世界の石油需要増（前年比220万バレル/日）の後、第3四半期になり、需要増のペースは120万バレル/日に鈍化した。これは、7、8月の需要が弱かったのと9月のハリケーンの影響を反映したもの。我々の石油需要の成長予測は、2017年に160万バレル/日の増加（1.6%増）、2018年に140万バレル/日の増加（1.4%増）に据え置いている
2. 9月の世界の石油供給は、OPEC非加盟国の生産増により、9万バレル/日増加し、9,750万バレル/日となった。これは去年より62万バレル/日高い水準。OPEC非加盟国の生産は、2017年に70万バレル/日増加し、2018年に150万バレル/日増加することが見込まれる。
3. 9月のOPEC加盟国の原油生産は、リビアとイラクのわずかな増産がヴェネズエラの供給減少を補ったくらいで、大きな変化はない。OPEC全体の生産量の3,265万バレル/日は一年前よりも40万バレル/日低い。年初来の減産協定の遵守率は86%。
4. 8月のOECD加盟国の石油民間在庫は、上方修正された7月から1,420万バレルの減少となった。過去5年平均に対する余剰は、1.7億バレルに減少した。2017年第3四半期の世界の石油在庫は、洋上輸送中の量の減少とOECDの在庫減が中国での在庫増を上回るため、減少が見込まれる。
5. 9月の原油指標価格は、8月から2～4ドル上昇し、3ヶ月連続の増加となった。中間精製品の価格は、精製量の低下と高い需要を反映し、原油の2倍のペースで上昇した。
6. 2017年の第4四半期の石油精製量の予測は、前の四半期から10万バレル/日増加し、8,090万バレル/日と見込まれる。2018年1月についての我々の最初の予測では、（精製量は12月から40万バレル/日減少して8,200万バレル/日を下回るが）前年比で120万バレル/日の増加と見ている。
7. 2017年を通じた原油と石油製品の在庫の動きについて、それぞれ一日あたり10万バレルと20万バレルの在庫減とみている。来年の原油と石油製品の市場は、（OPEC加盟国が現在と同程度の算出を続けるという前提では）おおむね均衡とれたものになるだろう。